

九大所蔵漢籍の特徴と保存・整理の問題

竹村, 則行
九州大学大学院人文科学研究院文学部門 : 教授 : 中国文学

<https://hdl.handle.net/2324/16266>

出版情報 : 貴重文物講習会. 28, 2010-01-29
バージョン :
権利関係 :

九大所蔵漢籍の特徴と保存・整理の問題 (第28回貴重文物講習会、2010. 1. 29)

※本報告は、九州史学会シンポジウム(2009・12・12)報告「九州大学所蔵の史資料(漢籍)」を基に、本講習会用に修正したものである。

人文科学研究院 竹村 則行

一 はじめに 一漢籍とは何か …漢籍・準漢籍の定義。

- ① 「漢籍」とは清朝以前に中国人が漢文(古典語)で著した書籍を指して言う(広義には近現代の活字本・影印本等を含む)。日本人が漢文(詩文集、注釈等)で著した所謂「準漢籍」は国書に含まれることがある。

二 漢字、漢籍と日本文化…日本に伝来した漢字、漢籍と、それが日本文化に与えた影響。

- ② 漢字漢籍の日本への伝来(応神天皇(在位270-309)時、王仁が『論語』『千字文』を伝える? 鏡文・貨幣文?)。初来の記録が儒教書と蒙学(初学)書であることは興味深い。
- ③ 以後約1700年、日本文化は一貫して漢字漢文の影響下にあった。特に**平安**(遣唐使)、**鎌倉**(五山僧)、**江戸**(鎖国)、**近代**(明治大正昭和前期～日清・日中戦争)期は漢籍による漢字文化の影響が顕著であった。今日の日本の漢籍は主にこの時代に蓄積された。

三 九州大学と図書(漢籍) …創立百周年を迎える九大の知の創造を支えた図書(漢籍)について、21世紀の今日に再認識する意義と必要性。

- ④ 創立前初期(明治大正)ほど、購入・寄贈図書の漢籍図書の比率が高く、戦後(1945後)は洋書が増加する。今日購入の漢籍は古書(稀少)か影印本・活字本が多数。
- ⑤ 今日、漢籍は貴重な文化遺産であり、確実な保護と今日的な活用の施策が必要。

四 九州大学所蔵漢籍の特徴…西日本の拠点大学たる九大の漢籍は、東大や京大等の大規模校ほどではないものの、その歴史と文化を反映して、相当豊富に漢籍を蔵する。

- ⑥ 長年の継続購書と個人文庫(寄贈・購入)による蓄積。 ← 国会図書館(東京・関西)・国立公文書館(内閣文庫)・東大図書館-東文研・京大図書館-人文研、他
- ⑦ 九大の碩水文庫(楠本碩水、中国宋明儒学)、濱文庫(中国近代戯曲)等は特に貴重。
- ⑧ 図書の蓄積は「眼力・金力・権力」による(竹村)。長年に渡って集書者の眼力と経済力(図書購入費)によって蓄積された九大の漢籍(一般図書)は相当に貴重である。
- ⑨ 蔵書の貴重さは所謂国宝や重文級図書のみではない。その時点での一貫した集書テーマを持つコレクションも重要であり、個人(特殊)文庫はこれに相当する。
- ⑩ 「物以稀為貴」(物は稀なるを以て貴と為す。白居易詩、魯迅「藤野先生」)…国宝や重文級図書は勿論貴重だが、稀観文物の多くは実は当時の通常物が今日稀観化したもの。

五 九州大学附属図書館漢籍目録 →九州大学文学部漢籍目録 →九州大学漢籍目録

- ⑪ 『教養部図書館漢籍目録』（1971）・『附属図書館漢籍目録』（1995）は既刊（要補正）。
- ⑫ 文学部漢籍目録（冊子）の構想はあるものの未着手、実現は相当に困難（OPACは済み）。
- ⑬ 近く予定のキャンパス移転に伴う漢籍、書籍の調査データは、移転のみならず重要。
- ⑭ 将来、総合化した九州大学漢籍目録（或いは全国全世界の漢籍目録）の実現は一目標。
- ⑮ 今後の図書目録は、冊子目録（紙媒体）からデータベース（電子媒体）へ移行するか？

六 新中央(文系)図書館(伊都地区)における図書(和書・漢籍・洋書)の保管と活用

…平成29-30年の伊都移転に向け、近く新中央(文系)図書館の最終設計が開始。

- ⑯ 移転の際、移籍する - しない(廃棄)図書の分別が必要。六本松図書館の経験を教訓に。
 - ⑰ 図書(和書・漢籍・洋書)に対する認識と、保管・活用に十分な新館の設計が必要。
 - ⑱ 新館は、西日本、アジアの拠点大学に相応しい機能的な図書館の設計が望ましい。
 - ⑲ 過去に独自の歴史伝統を有する漢籍分類は、日本十進分類法（NDC）よりも四部分類法（経史子集）による分類が相応しい。漢籍のNDC配架は使い勝手が悪く、非機能的。
 - ⑳ 図書館・人間が図書の敵になる!?!…『書物の敵』（19C英、W・ブレイズ）より
= 火・水・ガス・埃・無知・紙魚・害獣害虫・製本屋・蒐集家・召使子供
+ 地震・多湿（20世紀昭和の庄司浅水「書物の敵」補）
+ 蔵書家（子孫）や蔵書機関（図書館）の無知・IT機器（21世紀平成の竹村補）
★ 1923. 9. 1. 11. 58 関東大震災、2005. 3. 20. 1053 福岡西方沖地震の教訓。
 - ㉑ 伊都移転に際し、関係者の無知や物理的制限（容量・予算）に因り、貴重文物の冷遇紛失破棄が生じる懸念がある。
- 漢籍講習会（1991-94）・貴重文物講習会（2007-現在）や公開講座等は重要。

七 まとめ - 図書の将来とデジタル化…図書の情報化(アーカイブズ等)の重要性は認識

するが、図書(漢籍)そのものへの確かな認識は、文化の基盤要素である。

- ㉒ 美術館・博物館の展示では、ラベルを読むよりも対象自体への凝視が肝要。同様に漢籍認識についても、電子データはともかく、漢籍そのものへの直接の把握が必須である。
- ㉓ 総デジタル化の時代ではあるが、アナログの象徴たる図書(漢籍)は、そう簡単には消滅しないであろう。なぜなら人間自体が究極のアナログであるからである。
- ㉔ 人間と同じく有機(生命)体である図書(漢籍)には、アーカイブズの情報処理はともかく、図書そのものを無機質のデジタル化(符号化、記号化)することはそぐわない。
- ㉕ 漢籍目録(京大人文研)・論著の目録・本文等(国文学研究資料館、QIR、他)の全国的・世界的情報公開は可能であり、既に全国全世界的に進行中。
- ㉖ 過去の文化遺産となりつつある漢籍(図書)への確かな認識と保護が現在求められる。
- ㉗ 中央図書館のライブラリーサイエンス構想は、過去の冊子体図書(漢籍)への理解の促進と共に、将来電子化されたデジタル図書(館)への展望を開くものとして一定の期待。
- ㉘ 世界規模のIT化と九大キャンパス移転の渦中であって、時宜を得たこの講習会が、九大の漢籍(図書、文物、史資料)の価値を再認識する契機になれば幸いである。